

平成27年度第8回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 平成28年3月18日（金） 午前10時～11時50分
2. 開催会場 印西市文化ホール 大会議室
3. 出席者 粉川一郎委員長、植本崇委員、大和正明委員、安倉史典委員、玉井和幸委員、北村倫子委員、大野定俊委員、浅賀博委員、牧野昌子委員、奥野不二子委員
（以上10名）
4. 事務局 松田課長、伊藤、杉山
5. 傍聴者 0名（定員5名）
6. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 議題 企画提案型協働事業の見直しについて（中間報告）
 - 3 その他
 - 4 閉会

7. 会議要旨

2 議題 企画提案型協働事業の見直しについて（中間報告）

《事務局説明》

- ・前回の委員会の後、学識経験者区分の委員に参加していただき、1月28日と2月26日に見直し検討会を実施した。今後の見直しスケジュールとしては、本日の中間報告を踏まえ、次回の委員会で平成28年度企画提案型協働事業の正式な素案を提示する予定になっている。
- ・現在までの検討結果について、資料1、資料2を基に修正部分を中心に説明した。

《議長進行》

- ・これまでの検討結果の中間報告として開催するものである。正式な素案は次回の委員会で提示する予定なので、素案のとりまとめに向けたご意見をいただきたい。

《委員意見》

- ・同一事業の継続回数は3年まで3回ということだが、3年であれば継続は2回ではないか。
→次回までに修正する。（事務局）
- ・【資料2】2ページの協働に関する説明が減っているが問題ないか。
→昨年作成した「協働の手引き」で補足できるものと考えている。（事務局）
- ・これまで実施されてきた事業を他の団体が引き継ぐような形で継続することになった場合、その事業の継続はどう判断するのか。
→継続については様々なケースが考えられるが、団体が変わった場合はあらためて審査することになる。（事務局）
- ・事業が終了した場合、企画提案型協働事業で購入した備品は誰の所有になるのか。
→委託費なので受託団体の財産となる。（事務局）
- ・募集の区分を分けて記載したのはよいと思う。ただ、自由テーマ型から行政テーマ型への移行のプ

ロセス部分が素案の記述ではわかりにくい。もう少し説明を加えた方がよいのではないか。

→検討したい。(事務局)

- 自由テーマ型と行政テーマ型には何も違いがないように見える。【資料2】7ページに、自由テーマ型の事業を提案する場合は市の施策に該当する企画となるよう留意すると書いてあるが、これは今までなかった記載である。これでは行政テーマ型と何も変わらないのではないか。
 - 自由テーマ型と行政テーマ型は募集の区分として全く異なるものである。行政テーマ型は、市が募集する企画事業のテーマを実施要領の中で示し、市民からの具体的な提案を募集するものである。一方、自由テーマ型は特にテーマを定めず自由な提案を募集するもので、従来と同じ募集方法である。行政テーマ型の具体例や提案書様式の説明が不足していた点について補足すると、ご指摘のように、【資料2】7ページと14ページの提案書様式④「協働事業計画書」に該当する市の施策及び協働担当部署の記載欄を新たに設けた。その理由は、これまでも自由テーマ型は市の施策に沿った事業であるという前提があったが、その点が計画書に明確にされていなかったことから新たに追加したものである。実際の申請においては、提案者単独で市の施策との整合性を検討するわけではなく、アイデア審査後の協働担当部署を含めた三者協議の中で該当する市の施策を決め、協働事業計画書を提出する形となる。自由テーマ型の提案を拘束するような意図ではないことをご理解いただきたい。(事務局)
- 竹袋調整池の維持管理事業のように市民が課題を解決するために活動している事業は、コストも安く市民にも行政にも大きなメリットがある。こうした事業はなるべく支援していく必要がある。
- 【資料2】24ページの「アイデアのたまご」は大変よい企画だと思う。
- 提案事業の年間活動スケジュールが提案書の中では見えてこない。
 - 提案書に年間活動スケジュールを追加する方向で検討する。(事務局)
 - 議論が混乱している部分があるので補足説明したい。他の自治体の例では行政テーマ型が毎年出てくるところとそうでないところがある。これから印西市で行政テーマ型に力を入れていくことはよいことだが、特に担当課は一層の努力が必要になると思われる。一方で、これまで自由テーマで長年継続実施され市民のニーズに応えてきた事業に、他団体との公平性や予算の担保という点で課題が出てきている点が見直しのきっかけである。行政テーマ型の推進は、他の団体にも提案のチャンスが出てくるという意味で、自由テーマ型の受け皿にもなりうるという側面もある。(粉川委員長)
- 自由テーマ型から行政テーマ型に移行する例を図式として示した方がよいのではないかと感じた。
 - 難しい問題ではあるが、あまり具体的な説明がない理由のひとつには最終的な事業の継続は行政側に決定権があることと関係するものと理解している。(粉川委員長)
 - 協働事業の今後のあり方はまず協働のパートナー同士で検討していくもので、企画提案型協働事業の枠組みの中で誘導していくような見せ方は本来の趣旨からすると好ましくないと認識している。その点で、事業を継続するための行政テーマ型への移行という表現は正確ではない。要は、自由テーマで行われてきた事業の意義を行政側が認め、その事業のエッセンスをテーマとして取り入れ、新規の事業として提案を募集するものだと認識している。(事務局)
- 介護支援事業など、様々な主体が協働で地域を支えていく必要性はさらに増している。行政テーマ型で立ち上げたものから自由テーマ型に移行していくようなケースなど、協働の形態にも状況に応じた様々なあり方が考えられる。
- 例えば、自由テーマ型については継続回数が記載されているが、行政テーマ型については回数の記

- 載が何もなく、その説明もない。もっと行政テーマ型について具体的に説明していくべきではないか。
- ・行政テーマ型に関する【資料2】2ページ「募集の区分」の説明は、市の施策との関連を含めてももう少し膨らませてはどうかと思う。
 - 募集の区分と具体例のセットで提示していく形となる。募集の区分の説明についてはご意見を踏まえ検討したい。(事務局)
 - ・自由テーマ型も行政テーマ型も行政の枠組みでの提案募集のように感じる。
 - 市との協働である以上、これまでも提案が市の施策に関連したものという前提条件で実施されてきた。実際には、市の施策に全く該当しない提案は考えにくい。(事務局)
 - ・募集の区分の名称は自由提案型、行政提案型にした方が、誤解が生じにくいのではないか。
 - ・市の施策で自由テーマ型に縛りをかけるようで違和感がある。これではさらに応募が減ってしまうのではないか。
 - 【資料2】7ページの表現は検討したい。ただ、市の施策についてはむしろ三者協議の中で事業内容をすり合わせするときに活用するためのものであり、市が提案内容を縛るような意図は全くない。(事務局)
 - ・【資料2】8ページ「自由テーマ型で同一事業の継続は、3回までとします。」の表現はிரらないのではないか。
 - ・継続期限は何年が妥当かという議論はあっても、団体の機会均等の観点から期限を設けるということについては、委員会の中で検討されてきた経緯がある。ただし、自由テーマ型の継続は3年までであり、その後は行政が次の展開を判断するという点は明確にしておいた方がよいのではないか。
 - 今回の見直しは、期限を区切るという委員会の意向を踏まえて検討したものである。(事務局)
 - ・行政テーマ型の提案募集を広く周知することで、民間事業者なども含めた様々な主体が提案してくるような状況になることを期待している。
 - ・行政テーマ型や共同提案の記述追加は市が積極的に協働を推進していくための制度変更と理解しており、評価している。将来的に「アイデアのたまご」で生まれたアイデアを市が育成していくようなプロセスができれば、さらによいものになっていくのではないかと期待している。
 - ・相模原市の募集要領のように、自由提案型、共同提案型、アイデア提案と3つを並べて表記している方が分かりやすい。なるべく丁寧に説明をしていくべきだと思う。
 - 見直しの方向性は大筋として了承されているが、実施要領の表現や構成についての意見が多く出ている。抜本的に実施要領の構成を見直すことが必要と思われる。(粉川委員長)
 - ・【資料2】24ページの「アイデアのたまご」について、具体的にどのような形で公開していくのか。また、【資料2】8ページの(4)応募資格に「個人」とあるが、「市民」にはできないのか。
 - 「アイデアのたまご」は、市のホームページや市民活動支援センターの掲示板等で紹介していくことを検討している。また、応募資格の「個人」は、市民活動推進条例施行規則の様式に使われている表現に準じたものである。(事務局)
 - ・【資料2】24ページの「アイデアのたまご」は、企画提案型協働事業説明会でも紹介してもらいたい。また、実施要領の表紙も素案では変わり映えがないので新しくなったことがわかるよう工夫してもらいたい。
 - ・難しいかもしれないが、「アイデアのたまご」にインセンティブをつける手法も考えられる。また、市広報紙で周知を図るだけのプライオリティはあると思うので、記事にしていきたい。

- ・自由テーマ型、行政テーマ型の語句はこのままでよいか。豊中市では指定テーマと呼んでいる。
→検討する。(事務局)
- ・マニュアル的な要素もあるので、【資料2】7ページの施策の体系図は後ろのページにもっていくなど、ページの順番を提案の流れと合わせた構成に変えていくことも一案と思われる。
- ・団体の年間活動スケジュールは提案書の様式に加えていった方がよいのではないか。
- ・審査側としては、実施項目、年間活動スケジュール、個別の事業経費がセットになった形の協働事業計画書であることが望まれる。
- ・同一事業の継続について、応募資格ではなく他の項目に記載することも検討していただきたい。
→検討する。様式はまとめておく形の方が使いやすいかお尋ねしたい。(事務局)
- ・様式は様式でまとめておいてよいと思う。

3 その他（事務連絡）

- ・平成28年度印西市市民活動推進委員会のスケジュールについて